

短編小説

OTAKU WARS

～序章～

嵐龍

——世界は「オタク」と「リア充」に分かれていた。

両者は対立し、血を血で洗う醜い争いが幾年も続いていた——

ある日「リア充」は「オタク」に対し進行を始め、自らを「リア充オタク」と称し始めた。「オタク」達は激怒し、反撃を開始した。

「同士達よ！我々は『害虫』である！輝かしい栄光を捨て、自らを貶めたからこそ、我々はかけがえのないものを手に入れた！しかし、それを汚そうとする連中がいる！奴等是我々の領土に進行し、自らを貶めず、綺麗なまま死肉を食らおうとしている！なんと穢らしいことか！まるで糞尿に集る蝶ではないか！同士達よ、これは決して許される事ではない！」

「今宵、我々は火を吹く害虫となる！卑しい蝶どもの羽を焼き払い、肥え太った芋虫の姿を世に曝すのだ！」
オタク達は決起し、リア充に反撃を開始した。第一次オタク大戦の始まりである。

結果は惨敗。敵陣に飛び込んだオタクは次々とリア充の餌食となった。敗因はコミュ力の欠如による粗雑な連携であった。中には味方同士が争い、陣営内も紛争状態となった。

やがて世界からオタクは消え、リア充が君臨する世となっていった……

大戦から数年が経ち、人々は「オタク」を忘れ、皆が蝶のように美しく羽ばたく世界となった。
そこに一つ灯火が産まれた。その姿は醜く、蝶とは程遠い、まるで——『害虫』であった。

★この作品はフィクションです。

実在の人物・団体・事件などには、いっさい関係ありません。

本書の一部あるいは全部を、著作権者の承諾なく、転載、複写、複製、公衆通信(放送、有線放送、インターネットへのアップロード)、翻訳、翻案などを行うことは、著作権法上の例外を除き、法律で禁じられています。